

朝日連峰

越沢川～女川周辺

鈴木 他

【2012年9月15日～17日】

【メンバー】鈴木（L）古野・植島・坂村・吉岡



最初の計画目的は、女川周辺でのんびりと！しかし、地形図をながめていたらいろいろ感じるものが。さらに古野さんから、以下のような昨年の米沢街道に関連する古道情報が入って来たら、体力とは別の欲張った計画となった。しかし、去年以上に使われていない古道はただの藪。1日目で体力を使ってしまい、しかも予定とは逆コースとなる。行動範囲も短くなり、結局のんびり山行になった。でも、今回はとても参考になりました。今後このブナ森山域を、私なりに楽しめるような計画を考えたいと思っています。（鈴木孝昇 記）

関川村の「米沢街道」文書によると「羽越国境を越えて交流する古道には、荒川左岸を主として通るおいたま道、荒川右岸の八口道、支流女川左岸沿いの蕨峠越、支流藤沢川沿いの折影峠越があった。蕨峠越には慶安三年（一六五〇）村上藩主松平大和守直矩が、小和田口留番所を設置し、幕末まで存続しているので、重要視された道路であった。ところが荒川下流右岸狭処（荒川町貝附対岸）が、たび重なる水害で決壊のため、荒川右岸、支流女川沿いの道路利用度は減少するに至った。」

9/15 晴れのち一時雨

（吉岡 記）

今年も古道の時期がやってきた。昨年の米沢街道塩の道に続く、古道+沢シリーズ第2弾である。

金曜の夜に東京を発ち、東北道経由で「道の駅 いいで」で前泊。車で越沢川沿いの林道を進み、分岐点にて下車。ここから越沢川沿いの林道、古道に歩を進める。堰堤までは整地されており、車両も入れる。地形図をみると、古道は堰堤右側にあるはずなのだが、堰堤の袖に登ってみたところ行けそうにない。結局、堰堤の水通し部を通過し、右岸側に古道を確認する。最初は古道、というか踏み跡も識別可能であり、順調に歩を進める。もしや、去年より楽勝かと思いきや、10時頃、枝沢を横断した先がまるっきりわからなくなる。藪で右往左往し体力・気力を消耗した。古道は諦め、無理矢理登山道の方をを目指す。お空は快晴。沢日和ではあるが、古道歩き日和ではない。風もなく暑くて熱中症になりかけた。所々に出現する沢に救われたが、本当に暑い。こんなの9月じゃない！藪漕ぎを続け、斜面を進み、昼も過ぎた頃ようやく登山道を再確認。そこから先は、道もはっきりしている。そして、ここでまた柔軟に行程変更。当初の予定では白沢で幕ということであったが、暑さによる疲れと、以降も道がはっきりしているのか不明であるため、五郎三郎沢へ下降することとした。

登山道から五郎三郎沢への下降も、最初は明確な踏み跡が付いている。最近の寡雨の影響もあってか、五郎三郎沢も下降すれど、なかなか水量が増えない。沢幅は狭く、小さな滝がいくつかあり、小さく巻きつつ下降を続ける。2時間程度下降して、

テン場適地を発見。下降中、通り雨に襲われたが、夜雨が降っても大丈夫な段丘が右岸側にあった。場所は左岸側から沢が流入し、流れが北向きになる地点。やっと落ち着ける場所を確保し、宴会の開始である。空は満点の星空、虫も少なく、豊富なつまみも旨い！熱中症か睡眠不足かのどちらかにより頭痛に悩まされた私だが、お酒は飲めなくとも、楽しい宴会時間であった。

9月16（日）晴れ

（坂村 記）

午前5時に起床した。まだ少し薄暗い。朝食を済ませて7時半に出発した。

暫く五郎三郎沢の平凡な歩きになるのかと思いきや、歩き始めてすぐに沢が狭くなり、小滝が出現した。4mの滝を右岸から、10mの滝を左岸から巻く。10mの滝の巻きは、登り始めこそ急でお助け紐が必要だったが、いったん登ってしまえば下りは緩やかで、左から入っている沢に降り立つことができた。その後すぐに下りられそうもない滝が出現し、左岸側を巻いたが、滝を超えてもいつまで経っても沢床までが急斜面であったので、非常に長い巻きとなり、最終的には細い沢形を利用して沢床に下りた。巻きの途中、鉦



目がいくつか目についた。その後小滝をいくつか超え、ゴロ歩きとなったら牛股沢に出合った。歩き始めてからここまで泊まれそうな場所はひとつもなかった。昨日心地よい幕場を発見してくれた吉岡さんの功を全員で讃えた。

牛股沢に入ると、幕場の宝庫だった。大きな滝こそなかったが、深い釜がたびたび出現するようになった。

鈴木さんと古野さんは巻いたりへつったりにこだわったが、女性陣はだんだんそれが面倒になり、泳ぐほどの場所でなければザブザブと深い水の中を歩いた。この頃関東地方は水不足であったが、この辺りもいつもに比べて水量が少ないのではないかと皆で話した。私たちが水の中を歩いた釜も、例年であればもしかしたら泳ぎになるのかもしれない。イワナが走る。白沢に着くまで釣りはしないといていた鈴木さんと古野さんは、我慢できなくなって竿を出したが、その途端イワナの姿は消えて釣果はゼロに終わった。

12時半に白沢との出会いに到着した。白沢に入って少し歩いた辺りに幕を張った。ここは増水時には水の通り道になる様子だったが、雨の確率が低かったことと、万一のときには一段上に逃げられることを全員で確認した。夕方近くになって釣りに出かけたが、鈴木さんが大きめのイワナを一匹釣りあげたのみで、刺身と粗汁で大切にいただいた。

9月17（月）晴れ

午前4時に起床した。辺りはまだ暗い。朝食をとり、6時半に出発した。白沢から女川本流を下降する。沢をずっと下るといふ沢登り(?)は初めてだったので、当然のことではあるが、どんどん沢が大きくなってゆく様が面白いと感じた。特に困難な場所はなく、約30分ほどでピンクテープの付いた古道の入り口を発見した。この登り口には水が湧いていて、この3日間で一番冷たい水を味わうことができた。女川を背に歩き始めると、すぐに幕場があり、とても快適そうだった。しかしここから先の道がなかなか見つからず、荷物を降ろして全員で探し、幕場の横のほとんど



水の流れていない沢の先にやっと見つけた。古道は、しっかりとした道で、ところどころ笹が刈り取られており、現役で活躍していることを知ることができる。地図上で「蕨峠」と記載のあった峠はいつの間にか通り過ぎていたようだが、少し先の気持ちのよい峠道で、大きなブナのあるところを蕨峠と見立てて全員で記念

撮影。その後は、勘倉峰のトラバースが随分悪かったが、それ以外は歩きやすい道だった。林道に出たのが11時過ぎ。そこから車までは整備されたいい林道だが、長い長い日向との戦いだった。

【コースタイム】

9/15 越沢川林道分岐 P 9:15— 巨大堰堤 9:30— 稜線踏跡 13:30 — C 1 16:10

9/16 C 1 7:30— 女川本流 12:40— C 2 13:00

9/17 C 2 6:30— 登山道出合 7:10— 蕨峠付近 10:10 — 林道分岐 P 13:00

【地形図】 船渡

